

アスパラガス病害虫防除暦及び防除日誌（共通）

※出荷前提出用

R6 JA庄内たがわ
令和6年2月14日時点の登録内容にて作成

確認

支所		生産者コード		氏名	
収穫開始日	月 日	収穫終了予定日	月 日		

除草剤		※【センコル水和剤・トレファノサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい						散布日
防除時期	対象病害虫(雑草)	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	RACコード(※2)	使用方法	散布日
萌芽前	一年生雑草	センコル水和剤	100~150g	萌芽前~萌芽始期	1回	H:5	全面土壌散布 散布量100ℓ/10a	月 日
萌芽前	一年生雑草	ロックス	150~200g	萌芽前(雑草発生前~発生始期)	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量70~150ℓ/10a	月 日
収穫期	一年生雑草	バスタ液剤	300~500ml	収穫前日まで (雑草生育期萌芽前又は畦間処理)	合わせて 2回以内	H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日
収穫期	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500ml	収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)		H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日
収穫期	一年生イネ科雑草 (スズメカビを除外)	ナブ乳剤	150~200ml	収穫前日まで (イネ科雑草3~5葉期)	1回	H:1	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a (イネ科のみ効果)	月 日

※【センコル水和剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい

※ハウス栽培では、土壌処理剤(ロックス)は使用しない

【その他使用薬剤】

※上記防除暦と異なった計画防除で実施した場合などに下記の記入欄を活用下さい

登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日

【留意事項】 使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※例) 6/15朝9時防除作業終了 → 次回収穫開始可能日時は、6/16朝9時以降より

- 病害虫の発生状況等を見て散布してください。
- 適正な栽植密度とし通風・作業性をよくしてください。
- 圃地の適切な排水管理に努める。
- 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。
- ドリフト軽減ノズルや防薬ネットを使用しましょう。

アスパラガス病害虫防除暦及び防除日誌 (ハウス栽培用)

※出荷終了後提出用

R6 JA庄内たがわ
令和6年2月14日時点の登録内容にて作成

提出日	月	日	生産者コード	氏名	確認
支所					
収穫開始日	月	日	収穫終了日	月	日

防除体系 (登録薬剤)

防除時期	種類	対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数	水 100ℓ 当り薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード (※2)	備考	散布日		
収穫中	殺虫	ジュウシホシクビナガハムシ、カメムシ類、アブラムシ類	アディオソ乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:3A	発生がある場合	<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アザミウマ類、カメムシ類、コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4A		<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	ハチハチフロアブル(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:21A F:39		<input type="checkbox"/>	月 日	
茎枯病防除徹底期間	① 立茎開始後直後	殺菌	茎枯病・株腐病	ベンレート水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	4回以内	F:1	<input type="checkbox"/>	月 日	
	② ①の散布7日後	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:M05	<input type="checkbox"/>	月 日	
	③ ②の散布7日後	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:11	展着剤不使用 高温注意	<input type="checkbox"/>	月 日
	④ ③の散布7日後	殺菌	褐斑病・茎枯病・斑点病	ロブラール水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	5回以内 1/5	F:2	<input type="checkbox"/>	月 日	
6月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	コサイド3000	2,000倍	50g	-	-	F:M01	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内 1/2	I:4A	<input type="checkbox"/>	月 日		
6月下旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:M05	アザミウマの発生が多い場合はウララDF(2,000倍・収穫前日まで・3回以内)を混用	<input type="checkbox"/>	月 日	
7月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	シグナムWDG	1,500倍	66g	収穫前日まで	2回以内	F:7 F:11	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	アザミウマ類、ナメクジ類	リーフガード顆粒水和剤(劇)	1,500倍	66g	収穫前日まで	2回以内	I:14	<input type="checkbox"/>	月 日		
7月下旬	殺菌	斑点病	スコア顆粒水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	2回以内	F:3	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ・オオタバコガ・ハスモンヨトウ	ディアナSC	2,500倍	40ml	収穫前日まで	2回以内 1/2	I:5	<input type="checkbox"/>	月 日		
8月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 3/4	F:M05	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	アブラムシ類・ネギアザミウマ	ウララDF	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:29	<input type="checkbox"/>	月 日		
8月下旬	殺菌	褐斑病・茎枯病・斑点病	ロブラール水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	5回以内 2/5	F:2	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	ハダニ類・オオタバコガ・ハスモンヨトウ・ヨトウムシ・ジュウシホシクビナガハムシ	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:13	<input type="checkbox"/>	月 日		
9月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アフエツフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	F:7	<input type="checkbox"/>	月 日		
	殺虫	コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ・オオタバコガ・ハスモンヨトウ	ディアナSC	2,500倍	40ml	収穫前日まで	2回以内 2/2	I:5	<input type="checkbox"/>	月 日		
9月下旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:11	展着剤不使用 高温注意	<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内 2/2	I:4A	<input type="checkbox"/>	月 日		
10月中旬～刈り取りまで(2回繰り返し)	殺菌	茎枯病	ICボルドー66D (バイカルテ1,000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	-	F:M01	茎枯病予防のためにICボルドー66D、ペフラン液剤25を2回繰り返し散布する。	<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺菌	茎枯病	ペフラン液剤25(劇)	1,000倍	100ml	収穫終了後(冬期まで)	5回以内	F:M07	<input type="checkbox"/>	月 日		

※1 薬害の発生する恐れがある為、展着剤は使用しない。また高温時の散布を回避する

※2 RACコードとは薬剤(殺菌剤・殺虫剤・除草剤それぞれ)の系統の分類を示す。薬剤の効果を持続させるために同じ系統の剤は連用しない。

【その他使用薬剤】※上記防除暦と異なった計画防除で実施した場合などに下記の記入欄を活用下さい

登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日

除草剤		土壌処理剤(トレフアナサイド乳剤、ロロックス、センコル水和剤)は使用しない						散布日
防除時期	対象病害虫(雑草)	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	RACコード(※2)	使用方法	散布日
収穫期	一年生雑草	バスタ液剤	300~500ml	収穫前日まで(雑草生育期萌芽前又は畦間処理)	合わせて2回以内	H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日
収穫期	一年生雑草	ザクザ液剤	300~500ml	収穫前日まで(雑草生育期畦間処理)		H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日
収穫期	一年生イネ科雑草(スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150~200ml	収穫前日まで(イネ科雑草3~5葉期)	1回	H:1	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a (イネ科のみ効果)	月 日

【茎枯病重点防除期間】一斉立茎の場合は、立茎の草丈が30cm以下の時点から重点防除を行う。ただだ立茎の場合も同様とするが収穫期間なので薬剤の使用時期に注意する。

【アザミウマの発生が多い場合】①ファインセーブフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ②アドマイヤーフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ③コルト顆粒水和剤(4,000倍・収穫前日まで・3回以内) ①~③の薬剤を5日毎にローテーション防除で対応

【害虫対策】ハウスサイド、入り口に「サンサンネット(赤色)」を張り、アブラムシ、アザミウマなどの害虫の侵入を防ぐ。

【茎葉処理】病害予防のために、積雪前に茎葉を地際から刈り取り、ほ場外で処分する。刈り取り後土壌表面をバーナー処理する。

【留意事項】使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※例) 6/15朝9時防除作業終了 → 次回収穫開始可能日時は、6/16朝9時以降より

【殺菌・殺虫剤の散布量目安/10a当り(300坪)】生育に応じて200~300ℓ 【展着剤】ワイドコート5000倍(水100ℓに20ml)を使用する

- 病害虫の発生状況等を見て散布してください。
- 適正な栽植密度とし通風・作業性をよくしてください。
- 園地の適切な排水管理に努める。
- 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。
- ドリフト軽減ノズルや防葉ネットを使用しましょう。

提出日	月	日	生産者コード	氏名	確認
支所					
収穫開始日	月	日	収穫終了日	月	

防除体系（登録薬剤）

防除時期	種類	対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数	水100% 当り薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード （※2）	備考	☐	散布日	
収穫中	除草	1年生雑草	センコル水和剤	10a当たり使用量100~150g	-	萌芽前~萌芽始期	1回以内	H:5	全面土壌散布 散布量10a当たり100ℓ	☐	月 日	
	殺虫	ジュウシホシクビナガハムシ、カメムシ類、アブラムシ類	アディオン乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:3A	発生がある場合	☐	月 日	
	殺虫	アザミウマ類・カメムシ類・コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4A		☐	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	ハチハチフロアブル(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:21A F:39		☐	月 日	
茎枯病 防除 徹底 期間	① 立茎開始後直後	殺菌	茎枯病・株腐病	ベンレート水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:1		☐	月 日
	② ①の散布5日後	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:M05		☐	月 日
	③ ②の散布5日後	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:11	展着剤不使用 高温注意	☐	月 日
	④ ③の散布5日後	殺菌	褐斑病・茎枯病・斑点病	ロブラール水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	5回以内 1/5	F:2		☐	月 日
7月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:M05		☐	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内	I:4A		☐	月 日	
7月中旬	殺菌	茎枯病・株腐病	ベンレート水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:1		☐	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・ネギアザミウマ	ウララDF	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:29		☐	月 日	
7月下旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	コサイド3000	2,000倍	50g	-	-	F:M01		☐	月 日	
	殺虫	ジュウシホシクビナガハムシ、カメムシ類、アブラムシ類	ダントツ水溶剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4A		☐	月 日	
8月上旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内 3/4	F:M05	コガネムシの発生が多い場合はモスピラン顆粒水溶剤(4,000倍・収穫前日まで・2回以内)を混用	☐	月 日	
8月中旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アフェットフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 1/4	F:7	斑点病重点防除	☐	月 日	
	殺虫	ハダニ類・オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ジュウシホシクビナガハムシ	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:13		☐	月 日	
8月下旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ロブラール水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	5回以内 2/5	F:2		☐	月 日	
9月上旬	殺菌	茎枯病・斑点病・褐斑病	ファンタジスタ顆粒水和剤	3,000倍	33g	収穫前日まで	3回以内	F:11		☐	月 日	
	殺虫	ハスモンヨトウ	プレバソフロアブル5	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:28	害虫発生始期散布	☐	月 日	
9月下旬	殺菌	茎枯病・斑点病・褐斑病	アフェットフロアブル	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:7		☐	月 日	
	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内 2/4	F:11	展着剤不使用 高温注意	☐	月 日	
10月中旬~刈り 取りまで(2回繰り返し)	殺菌	茎枯病	ICボルドー66D (バイカルテイ1,000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	-	F:M01	茎枯病予防のためICボルドー66D、ペフラン液剤25を2回繰り返し散布する。	☐	月 日	
	殺菌	茎枯病	ペフラン液剤25(劇)	1,000倍	100ml	収穫終了後 (冬期まで)	5回以内	F:M07		☐	月 日	

※1 薬害の発生する恐れがある為、展着剤は使用しない。また高温時の散布を回避する

※2 RACコードとは薬剤(殺菌剤・殺虫剤・除草剤それぞれ)の系統の分類を示す。薬剤の効果を持続させるために同じ系統の剤は連用しない。

【その他使用薬剤】※上記防除暦と異なった計画防除で実施した場合などに下記の記入欄を活用下さい

登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日

除草剤		※【センコル水和剤・トレファノサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい							散布日
防除時期	対象病害虫(雑草)	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	RACコード (※2)	使用方法	散布日	
萌芽前	一年生雑草(ツクサ科、カササゲ科、キ科、アザミ科を除く)	トレファノサイド乳剤	200~300ml	萌芽前収穫打切後(雑草発生前)	1回	H:3	全面土壌散布 散布液量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	センコル水和剤	100~150g	萌芽前~萌芽始期	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	ロックス	150~200g	萌芽前(雑草発生前~発生始期)	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量70~150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	バスタ液剤	300~500ml	収穫前日まで (雑草生育期萌芽前又は畦間処理)	合わせて 2回以内	H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	ザクサ液剤	300~500ml	収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)		H:10	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150~200ml	収穫前日まで (イネ科雑草3~5葉期)	1回	H:1	雑草茎葉散布 散布液量100~150ℓ/10a (イネ科のみ効果)	月 日	

※【センコル水和剤・トレファノサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい

【茎枯病重点防除期間】一斉立茎の場合は、立茎の草丈が30cm以下の時点から重点防除を行う。だから立茎の場合も同様とするが収穫期間なので薬剤の使用時期に注意する。

【アザミウマの発生が多い場合】①ファインセーブフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ②アドマイヤーフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ③コルト顆粒水和剤(4,000倍・収穫前日まで・3回以内) ①~③の薬剤を5日毎にローテーション防除で対応

【茎葉処理】 病害予防のために、積雪前に茎葉を地際から刈り取り、ほ場外で処分する。刈り取り後土壌表面をバーナー処理する。

【留意事項】 使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※例) 6/15朝9時防除作業終了 → 次回収穫開始可能日時は、6/16朝9時以降より

【殺菌・殺虫剤の散布量目安/10a当り(300坪)】生育に応じて200~300% 【展着剤】ワイドコート5000倍(水100ℓに20ml)を使用する

1. 病害虫の発生状況等を見て散布してください。
2. 適正な栽植密度とし通風・作業性をよくしてください。
3. 圃地の適切な排水管理に努める。
4. 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。
5. ドリフト軽減ノズルや防葉ネットを使用しましょう。

アスパラガス病害虫防除暦及び防除日誌（春採り栽培用）

※出荷終了後提出用

R6 JA庄内たがわ
令和6年2月14日時点の登録内容にて作成

提出日	月	日	生産者コード	氏名	確認
支所					
収穫開始日	月	日	収穫終了日	月	

防除体系（登録薬剤）

防除時期	種類	対象病害虫	登録農薬名	希釈倍数	水100% 当り薬剤量	使用時期	使用回数	RACコード (※2)	備考	☑	散布日	
萌芽前～萌芽始期	除草	1年生雑草	センコル水和剤	10a当たり使用量100～150g	—	萌芽前～萌芽始期	1回以内	H:5	全面土壌散布 散布量10a当たり100ℓ	<input type="checkbox"/>	月 日	
収穫中	殺虫	ジュウシホシクビナガハムシ、カメムシ類、アブラムシ類	アデオン乳剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:3A	発生がある場合	<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アザミウマ類・カメムシ類・コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:4A		<input type="checkbox"/>	月 日	
茎 枯 病 防 除 徹 底 期 間	① 立茎開始後直後	殺菌	茎枯病・株腐病	ベンレート水和剤	2,000倍	50g	収穫前日まで	4回以内	F:1	<input type="checkbox"/>	月 日	
	② ①の散布5日後	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	アミスター20フロアブル ※薬害注意(※1)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	4回以内	F:11	展着剤不使用 高温注意	<input type="checkbox"/>	月 日
	③ ②の散布5日後	殺菌	茎枯病	ICボルドー66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	—	F:M01	<input type="checkbox"/>	月 日	
7月中旬	殺菌	褐斑病・斑点病・茎枯病	ダコニール1000	1,000倍	100ml	収穫前日まで	4回以内	F:M05		<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ジュウシホシクビナガハムシ	モスピラン顆粒水溶剤(劇)	4,000倍	25g	収穫前日まで	2回以内	I:4A		<input type="checkbox"/>	月 日	
8月上旬	殺菌	茎枯病・斑点病	ペンコゼブ水和剤	500倍	200g	収穫終了後 但し秋期まで	6回以内	F:M03		<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	アブラムシ類・コナジラミ類・ジュウシホシクビナガハムシ	ハチハチフロアブル(劇)	1,000倍	100ml	収穫前日まで	2回以内	I:21A F:39		<input type="checkbox"/>	月 日	
8月下旬	殺菌	茎枯病	ICボルドー66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	—	F:M01		<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	ハダニ類・オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウムシ、ジュウシホシクビナガハムシ	コテツフロアブル(劇)	2,000倍	50ml	収穫前日まで	2回以内	I:13		<input type="checkbox"/>	月 日	
9月中旬	殺菌	斑点病・茎枯病	フロンサイド水和剤	1,000倍	100g	収穫終了後 但し秋期まで	5回以内	F:29		<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺虫	ジュウシホシクビナガハムシ	エルサン乳剤(劇)	1,000倍	100ml	収穫3日前まで	2回以内	I:1B		<input type="checkbox"/>	月 日	
10月上旬～刈り取りまで(繰り返し)	殺菌	茎枯病	ICボルドー66D (バイカルティ1000倍加用)	50倍	2,000g	収穫終了後	—	F:M01	茎枯病予防のため刈り取りまでICボルドー66D、ペフラン液剤25の散布を2回繰り返す	<input type="checkbox"/>	月 日	
	殺菌	茎枯病	ペフラン液剤25(劇)	1,000倍	100ml	収穫終了後(冬期まで)	5回以内	F:M07		<input type="checkbox"/>	月 日	
他、登録薬剤	殺虫	ハスモンヨトウ	プレバソフフロアブル5	2,000倍	50ml	収穫前日まで	3回以内	I:28		<input type="checkbox"/>	月 日	

※1 薬害の発生する恐れがある為、展着剤は使用しない。また高温時の散布を回避する

※2 RACコードとは薬剤(殺菌剤・殺虫剤・除草剤それぞれ)の系統の分類を示す。薬剤の効果を持続させるために同じ系統の剤は連用しない。

【その他使用薬剤】※上記防除暦と異なった計画防除で実施した場合などに下記の記入欄を活用下さい

登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日	登録薬剤名	散布日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日
	月 日		月 日		月 日		月 日

除草剤		※【センコル水和剤・トレファンサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい							散布日
防除時期	対象病害虫(雑草)	登録農薬名	使用量(10a)	使用時期	使用回数	RACコード(※2)	使用方法	散布日	
萌芽前	一年生雑草(ツリガナ科、カツリガナ科、キ科、アブラ科を除く)	トレファンサイド乳剤	200～300ml	萌芽前、収穫打切後(雑草発生前)	1回	H:3	全面土壌散布 散布液量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	センコル水和剤	100～150g	萌芽前～萌芽始期	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量100ℓ/10a	月 日	
萌芽前	一年生雑草	ロックス	150～200g	萌芽前(雑草発生前～発生始期)	1回	H:5	全面土壌散布 散布液量70～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	バスタ液剤	300～500ml	収穫前日まで (雑草生育期萌芽前又は畦間処理)	合わせて 2回以内	H:10	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生雑草	ザクサ液剤	300～500ml	収穫前日まで (雑草生育期畦間処理)		H:10	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a	月 日	
収穫期	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	ナブ乳剤	150～200ml	収穫前日まで (イネ科雑草3～5葉期)	1回	H:1	雑草茎葉散布 散布液量100～150ℓ/10a (イネ科のみ効果)	月 日	

※【センコル水和剤・トレファンサイド乳剤を使用する際の注意点】土壌の乾燥が続く場合には、土壌散布は効果が低下しますので、雑草発生後に茎葉散布して下さい

【茎枯病重点防除期間】一斉立茎の場合は、立茎の草丈が30cm以下の時点から重点防除を行う。ただだ立茎の場合も同様とするが収穫期間なので薬剤の使用時期に注意する。

【アザミウマの発生が多い場合】①ファインセーフフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ②アドマイヤーフロアブル(2,000倍・収穫前日まで・2回以内) ③コルト顆粒水和剤(4,000倍・収穫前日まで・3回以内) ①～③の薬剤を5日毎にローテーション防除で対応

【茎葉処理】病害予防のために、積雪前に茎葉を地際から刈り取り、ほ場外で処分する。刈り取り後土壌表面をバーナー処理する。

【留意事項】使用時期の「収穫の前日まで」とは、薬剤散布を終了した時刻より24時間を経過するまで、収穫出来ないことを示します。

※例) 6/15朝9時防除作業終了 → 次回収穫開始可能日時は、6/16朝9時以降より

【殺菌・殺虫剤の散布量目安/10a当り(300坪)】生育に応じて200～300% 【展着剤】ワイドコート5000倍(水100ℓに20ml)を使用する

- 病害虫の発生状況等を見て散布してください。
- 適正な栽植密度とし通風・作業性をよくしてください。
- 園地の適切な排水管理に努める。
- 病害虫の温床となるものについては随時、適切に撤去する。
- ドリフト軽減ノズルや防葉ネットを使用しましょう。